

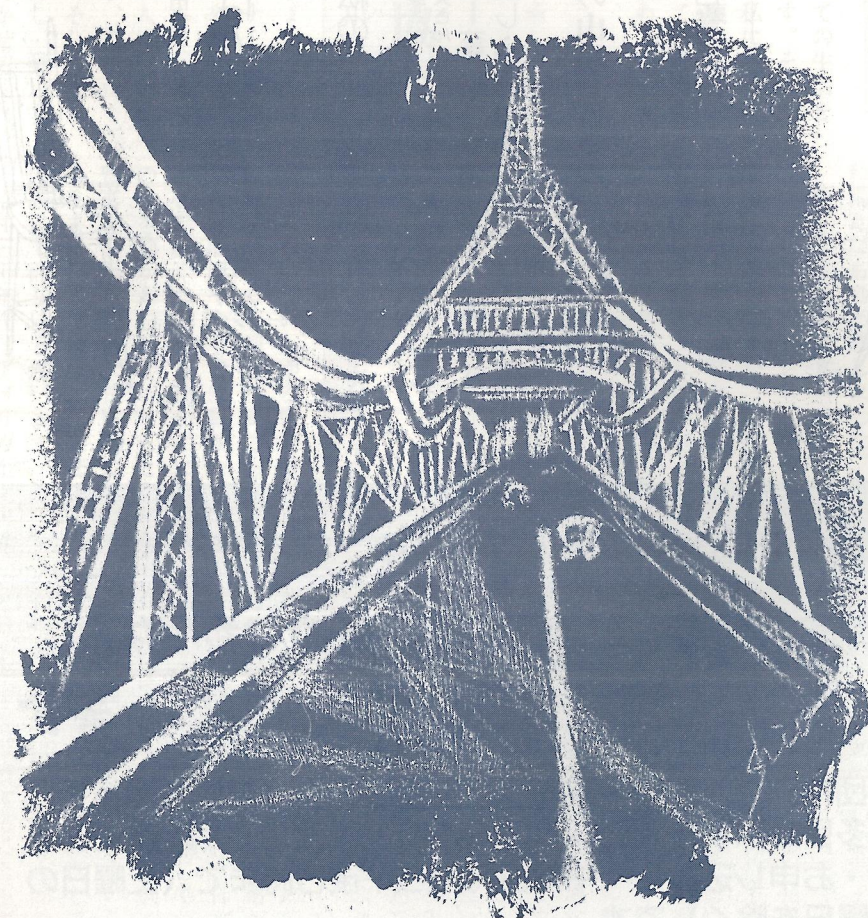
市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く——生涯学習誌

Stage

ステージ・アップ

up

11 月号【隔月発行】**無料**



大師橋

連載「いまを話す」高橋清・川崎市
長 会社人間にわが子の教育はムリ

時を磨くもの、人を輝かせるもの。

A.M.CASHING

専用CD機でリボ払いOK!
さいか屋各店のCD機で、暗証番号と金額を
押すだけで、ご利用いただけます。

専用CD機設置場所

- 川崎店=8階 ●横須賀店=大通り館3階
- 藤沢店=1階

A.M.SHOPPING

☑ お支払いは3つのコース

- ① 1回払い 5%優待割引の特典
- ② リボルビング払い
月々5千円・1万円・2万円と3種類
ご指定のコースによる分割払い
- ③ ボーナス一括払い
3%優待割引の特典

☑ お申し込み・お問い合わせはさいか屋
川崎5階クレジットカウンターまで



さいか屋川崎

〒210 川崎市川崎区小川町1番地
TEL. 044-211-3111



川崎っ子は燃えてるね。
と、江戸っ子が拍手した。

カワチカ・アゼリア
Azalea

東京じゃない。横浜じゃない。
だから、川崎へおいでよ。

〒210 川崎市川崎区駅前本町26番地2 TEL.044(211)3871(大代表)

もくじ

連載「いまを話す(下)」高橋 清(川崎市長)

会社人間にわが子の教育は△リ

はりきってます■グループ紹介・2

楽しいメルヘンの世界／幸 影絵の会

心このころ●生涯の 一冊 宮前区・鈴木婦津美さん
川崎区・青木 昭夫さん

学習・文化情報 ■ 講座・ステージ・催し・会員募集

市民企画講座 ■ 心のセミナーで劇作家の山崎 哲さん

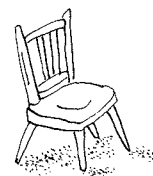
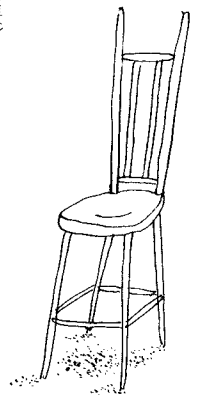
青少年犯罪の陰に 親子の対話欠落

「多摩川と語る」で小川一郎・立正大名誉教授
川は都市づくりの基礎

市民の声

ミニニュース・編集後記

●表紙絵——田島志織



当事業団は小田急線新百合ヶ丘駅下車、徒歩1分です

多目的ホール 研修室 会議室のご利用は

☎044-952-5000へお願いします

当事業団は 12月29日～翌年1月3日を除き 無休で開館して
います 多目的ホール(504席) 研修室(24～30席) 会議室(20席)
のご予約・お申し込みは 午前9時から午後5時まで(土曜日の
午後と日曜日を除く)です

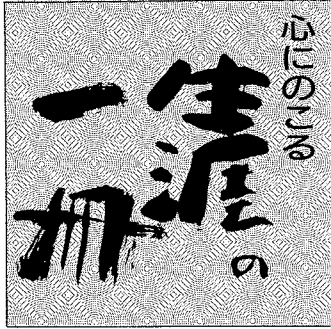
ローラ・インガルス・ワイルダー著 恩地三保子 訳 大きな森の小さな家 大草原の小さな家 福音館 家族とは何かを考える 川崎市宮前区犬蔵 主婦 鈴木婦津美さん

百数十年前の米国・開拓時代に少
女期を送ったローラ・インガルス
の世界に初めて出会ったのは六、七年
前でした。厳しい自然と対峙しなが

ら家族が助け合い、すべての生活を
自分達の手で生み出します。その生
きる喜びが、いきいきと私に語りか
けてきました。家庭の崩壊や家族の
中で自分の役割が失われている現在
「家族とはなにか」を改めて考える
機会になりました。
ローラの父は、インディアンや
オオカミから家族を守り厳しい冬に

備えるため、熊や鹿を捕丸太を組
んで家を造りました。しかし、親子
鹿の睦み合いを見て、撃つことが出
来なくなる優しさも持っています。
父親の役割は、家の外側の事に絶対
強く、家庭では厳しさと優しさを兼
ね備えたものと感じました。
ローラの母は食料を加工し、シ
ヤツやズボン、ドレス、帽子を作り
家族に貢献しますが、家の中の一切
の決断を下すのは彼女です。子供達
も実によく働き、五歳のローラが
お皿を拭きバター・ペーコン作りを
手伝います。一人前の働きを認めら
れる誇り、喜びなのです。ここに暮
らしの原型があります。

一日の労働を終え、家の入口で月
を見ながら父の弾くバイオリンと歌
を聴く家族の満足感にも共感を覚え
ました。有り余る食品やモノに困ま
れて暮らす私たち。「家族の満足感」
が死語に近いのはなぜでしょう。
収穫の秋、初めて脱穀機を使い、
半月かかった仕事を一日でやり終え
「機械つてのは素晴らしい発明だ：
我々は素晴らしい時代に生きてい
る」とローラの父が話します。こ
の時代の機械は人間に恵みを与えま
した。現代の機械文明の行き詰まり
は、人間の「より良い方向に伸びた
い」との発達志向が、自ら墓穴を掘
ったという皮肉にさえ感じます。



D・カーネギー著 人を動かす 創元社 心開き協力得るには… 川崎市川崎区大川町 酒食品卸業 青木昭夫さん(55)

人間関係の古典的な名著としてビ
ジネス界では有名な本ですが、私が
この本に出会ったのは、昭和三十
五年、二十四歳で父をがんで亡くし、
いきなり家業を継ぐことになった頃
です。
大学を卒業して間もないのに、い
きなり大勢の社員とともに生きてい
かなくてはならなくなり、皆さんと
一緒に働くにはどうすれば良いのか、

ずいぶん悩みました。ちょうど各地
で開かれ始めた経営セミナーに参加
し勉強しました。その辛かった時
期にこの本を読む機会があり、強く
感銘を受けたのです。「人に協力し
てもらうには自ら実践し、アプロ
チをすることの大切さ。そしてそ
うすれば相手も納得し協力し、動い
てくれる」ことを私に気付かせてく
れたのです。

この本は、いわゆる哲学書のように
にむずかしくも理論づめでもなく、
「人は理屈や命令では動かない、人
は心で動く」「相手を動かすには相手
の心を動かすしかない」ことなどが、
豊富な実例をもとに具体的に記して
ありますので、若い人にもぜひ一度
は読んで欲しいと思います。
昭和三十年代はアメリカ至上主義
で、経営者も人心掌握術としてもア

メリカの軍の将校の手法・ヒューマ
ンリレーションを盛んに取り入れて
学んでいましたが、今、考えてみま
すと太平洋戦争の山本五十六連合艦
隊指令長官の「やってみせ、いつて
きかせて、させてみて、ほめてやら
ねば人は動かじ」という言葉がすべ
てを表わしていましたね。日本人は
やはり優秀だなどと再確認しています。
その後、私も数多くの体験をし、
この本が机上の理論ではないことを
実感し、今でも時々読み返しては、
わかっているはずなのに人間の習性
とは……と反省することも多々あ
ります。

会社人間にわが子の教育はムリ

勉強習慣は家庭で

前号で、高橋市長は小学校教師だった青春時代の体験を赤裸々に話し「子供が伸びないのは教師の責任だ」と言いきった。「政治家は建て前に

市長は家庭教育や高校改革について率直な意見を述べている。

高橋さんには既に社会人になられた二人の男のお子さんがいらっしやいますね。家庭でお父さんとして、どういう教育、躾(しつけ)をしてきたのでしょうか。お聞かせください。

高橋さん (笑いながら) そうです。親としてこうやれ、ああやれと細かく言った覚えはないですね。ただ、僕が勉強していると子供がそばに寄ってきて、一緒に本を読んでもいましたね。テレビを見ていると一緒にテレビを見ますね。

高橋さん 親が子供に「勉強しろ」と言うのなら、家庭で親が読書をするとか、仕事の整理をする時間を持つ必要があります。子供は親の真似をして成長します。読書の習慣は幼児の時から大切です。大きくなって

本を読ませようと思ってもかなり難しいですね。

良い習慣は、幼い時に身に付けさせる事が親の役目ですね。

高橋さん 小学校低学年から「子供が勉強しない」と家庭教師をつける親も増えていきます。しかし、この時期はまだ勉強しようとの意欲、自覚が無いのです。集中力にも欠けています。勉強をする習慣、基礎を作るのに親はどうすべきか。子供と一緒に過ごす時間を増やし、新しい体験や学習の楽しさを身をもって教えるべきです。

親の背中を見て子供は育つと言うことですね。

高橋さん 親は、子供が小学校入学前から一、二年までは一生懸命勉強

強を教えますね。

高橋さん ところが三、四年生になると親は熱心でなくなる。その頃、教科がちよっと難しくなり、基礎を覚えるのに最も大切な時期なのです。多くの親は子供に「勉強しなさい」とは言います。でも自分(親)は遊びに出掛けたり、テレビの前でごろ寝です。子供と一緒に勉強しようと思いません。

子供にとっては迷惑な話ですね(うなずきながら笑う)。

高橋さん 五、六年になり中学進学が近づくと、親が子供に勉強を急(せ)かす。こういう傾向、多くありませんか。「教育熱心な親」と「口うるさい親」とは違うのです。

高橋さん 農民は、子供の時から農作業を手伝ってきたから、力の入れ方、勘どころを知っています。都会育ちの力持ちがいくら頑張っても直ぐ疲れます。それと同じで勉強をする楽しさ、勘どころは小さい時に習得すると後が楽なんです。

高校中退者の続出防ぐ 多様な指導システムを

川崎市市長 高橋 清さん 《下》
いまを話す
Vol. 2
インタビューア— 太田公子さん・フリーアナ

親は子供が小学校に入学してしばらくすると「手が掛からなくなった」とほっとしますね。

高橋さん 父親が会社でいくら頑張っている、子供が父親から学ぶのは、家庭での姿なのです。暖かい家庭の雰囲気の中で、きちっとした親の姿に触れて子供は健やかに育つわけです(しみじみした口調で)。

登校拒否児童・生徒がかなり

の数で、高校中退が全国で十数万人にも上る。深刻な状況が続いています。

高橋さん 川崎市では、登校拒否の子供達が自発的に学校に復帰できるように、新しい発想の学校を計画しています。傷ついた心を癒しながら学び心身を鍛えます。

画期的ですね。

高橋さん そのためには熱心な先

生が必要です。子供の気持ちを的確につかみ、子供の訴えを聴き不登校の原因を把握する熱意が求められます。同時に動物や植物に接し、自然の中で過ごす学園にします。父母の協力も不可欠です。

不登校問題は学校、家庭など原因が複雑に絡み合っているように感じます。

高橋さん 高校中退問題ですが、僕ら(が先生)の頃は高校に行きたいが、家が貧しく行けない生徒をどうするかで悩んだものです(考え込む)。

今の高校で一番いいのは画一化だと思えます。多様な指導方法、システムを用意する時期にきているのではないのでしょうか。

多様な指導とは、具体的にどのようなことですか。

高橋さん 例えば、教科書がどの学校も同じで、理解できない生徒にもそれで教える。生徒に適応した教科書で授業をやれば、学校が面白い状況は改善されるでしょう。人間は、一人一人が個性や得意なジャンルを持っており、偏差値だけで評価されませんよ。高校を多様な能力を開花させる教育の場にしなければ問題は解決しません(きっぱりと)。

私の友人が幼稚園以前の子供とその母親を集め、上手なスキップの仕方の勉強会を開いています。

高橋 清さん
たかはし・きよし=宮城県出身、66歳。宮城師範学校本科卒。昭和19年から42年、国民学校・小学校教諭。同年、川崎市立古市場小教頭。43年から川崎市教委指導主事、同指導課長、教職員部長、同市職員局長、同助役を経て平成元年11月、川崎市市長。尊敬する人は夏目漱石。趣味は読書、旅行。家族は妻玲子さん。長男(東大教授)、次男(日銀勤務)は独立。自宅は同市幸区小倉1134。

友人は「若い母親自身が過保護家庭育ちで、子育てが下手になった」と言っています。登校拒否や高校の大量中退と符合するのですね。

高橋さん おっしゃる通りですね。昔は兄弟が多いので兄が弟をかばったり、いじめたり、隣近所の子ともみ合い、自然と社会性が身に付いた。人間社会ですから、時には嫌な事もある。これは今も昔も変わらないのですよ。昔はもまれながら育ったので、嫌な事を克服する精神的逞(たくま)しさはその頃のほうがあったようです。今は子供が少ないので、小さなトラブルを乗り越えにくいようですね(実例を交えて)。

詰め込み教育とか、新幹線教育にも登校拒否の原因が……。



▶家庭教育における父親の役割りを話す高橋さん

小学校は教育内容絞り 体を鍛え社会性を!!



高橋さん 小中高校それぞれで、なにを教え、なにを学ぶかの体系的な把握が弱い気がします。小学校では、基礎をしつこいほど教える事を重視する。あんなに教える内容を増やして、子供をモミクチャにして良いのかと思います(怒りの表情)。

——モミクチャにされ学校嫌いの子供が多くなる……。

高橋さん 小学校では、教える内容を思いきり絞り「これだけ覚えれば良い」にしないと子供がまいてしまう。幼児期から体を鍛え、友達と多様な経験を積み、体力と社会性

を養えば将来の心配はないですよ。うちの子供が真剣に勉強を始めたのは十五、六歳からでした。

——最近、お母さんたちの学習をしたいとの要求が高まっています。生涯学習についての考えをお聞かせ下さい。

高橋さん それは大変結構なことですが、私は社会教育の専門家でないのですが、自分に与えられた仕事で自分を鍛える。鍛えることで精神力を強くすることは老若男女を問わず大切だと思いますね。

——真剣に生きていらつしやいますね。

高橋さん 生涯学習の目的は、生活を楽しむため、必要な知識や技術を学ぶ。もう一つは、人生八十年代をどのように生きるのかと深く関わる問題です。多くの人が定年後、何か趣味を持つとか、ある分野の勉強をしたいと思っています。欲をいえば、壮年の頃から地域のみなさんと一緒に学習して「心豊かな生涯」の準備をしておくべきでしょう。

——高橋さんは体力づくりはされていますか。

高橋さん 僕は、一日一万歩を目えています。

▲「昔の子供のほうが精神的たくましさはあったと思う」と話す高橋さん。左は太田さん

標に朝、鶴見川沿いを歩き、足りなければ夜やっています。

——多忙で、そんな時間ありません(意外そうに)。

高橋さん 一万歩、歩くのに一時間半かかりますよ。朝はお年寄りも結構歩いていますね。

——すいません、疑って……(高橋さんと一緒に笑う)高橋さんの座右の銘はありますか。

高橋さん 好きな言葉は「知好楽」です。論語の中の言葉ですが、まず物事を知る。知つたら、それを好きになるよう努力する。最後に、その事をやる苦しみでなく、楽しむにまで昇華(大きく飛躍)させる。職業に限らず、自分の選んだ道は知好楽の楽にならないと本物とは言えないと思ひまして……。

——いい言葉ですね。なにか新しいものにチャレンジする時、「知」にも勇気がいられますね。高橋さんのお仕事「楽」でありますことを期待致します。長時間ありがとうございます。

高橋さん とても楽しい時間でした。今後のご活躍をお祈りします。

(題字も高橋さん)
取材・植竹麻千子
構成・文責・田中 園

はつきちょうとあるぞう

「幼児に夢を与える」幸影絵の会

「幸影絵の会」のメンバー五人
阿部満喜子代表(41)はこども達の笑顔に会いたくて、ボランティア



▶「桃太郎」はいまでも人気者



▶幸影絵の会のメンバー

の公演を八年間続けている。
市民館や幼稚園で年間十回の公演。レパートリーは「桃太郎」「うさぎとかめ」「お月様どろぼう」などの童話からアニメの「アンパンマン」までお話が九つ。他に童謡やクイズを盛り込んだ出し物も。
色セロハンが貼られた型紙にライントが当たると、息を吹き込まれたように、「影」たちが主役に変身してメ

ルヘンの世界を繰り広げ、こども達を魅了する。
退屈だと騒ぎだすこども達が観客だけに脚本と人形、風景など手製りの「道具」づくりには神経を使う。
それでも公演で、こども達に日本と西洋の鬼の違いを指摘され、冷や汗をかいた事もあった。こどもは観客であると同時に厳しい批評家なのだ。「こども達に教えてもらうことが多いんですよ」とメンバーの一人は笑う。

だが「アンパンマン」の公演の際

桃太郎からアンパンマンまで

手づくりの年10回無料で公演

は夢中になったこどもが、投影された悪役バイキンマンに体当たりしてきた。そんな時、メンバーは影絵の会を続けていて良かったとしみじみ思う。そして「いつまでもこんな無邪気な子がいてほしい」と願う。

公演の後、人形と握手しに来るこども達もいるが、なぜか鬼や泥棒が人気者なのだ。また童謡を口ずさむ機会が少なく、テレビの影響でテンポの速い曲のほうが舞台と一緒に喜ばれるという。

「幸影絵の会」のメンバーは女性ばかりで、声画一面的になるのが悩みのタネ。家族に声の出演を頼み、「子供の夢を壊さないように」と一生懸命だが「あと数人会員が多ければ……」と新人の入会を期待する。
長続きしている秘訣は「絶対に無理をしないで、家庭で用事があるときは公演を断ります。それと影絵の舞台作りをしている時のおしゃべりかしら」影絵に対する愛情があらわれている。

阿部代表は「こども達に童話の世

界の素晴らしさを見てもらおうと始めました。最近、母親が幼児に本を讀んであげる家庭が少なくなつたと聞き、残念です。これからは、お年寄りにも影絵を楽しんでもらいたい」と話していた。

阿部代表宅は、幸区神明町二一五
九一—
☎ 044-533-0667

市民企画講座

市民自らが講座のテーマや具体的内容を討議して決め、講師の選定・依頼、PRチラシ、運営まで自力で
する事業団初の市民企画講座「多摩川と語る」流域の自然、民俗、文学と接して」と「心のセミナー」
すてきな人生、隣人、老後を得るために」は十月七日、十二日にそれぞれ開講した。「心」の第一回目のテ
ーマは「人間関係と心の変化」で、講師の劇団転位21主宰、山崎哲さんは幼女連続殺人事件の宮崎勤被告が
公判で無反応な態度に終始しているが、「トンチンカンな応答をする若者が増加しているのは、乳幼児期に親
子の間で真の対話が無かったからだ」と述べ、その原因に経済構造の変化に伴う地域社会の崩壊、家庭内の
個人の孤立を指摘した。これに先立つ「多摩川」のテーマは「川は生きている」。講師の小川一朗・立正大名
誉教授は、川誕生の歴史や「川がなければ、都市は形成されない。多摩川は庶民の暮らし、文化、産業発展
の恩人である」ことを豊富な事例に基づき、興味深く講義した。主な講座の要旨は今後も掲載する予定。

「心のセミナー」で劇作家の山崎哲さん

青少年犯
罪の陰に

親子の対話欠落

「人間関係と心の変化」人と出会うことの意味」をテーマに山崎さんは「人との出会いの根源的なものは対話だ」と切り出した。

しかし、この二十一年間で二十一、二歳の劇団員の人間の質が変わり、

対話の出来ない若者が多くなり「かつては言わないでもやれた事が出来ない。言った事が十分理解できない状況にぶつかると述べた。

生命感ない宮崎被告

見ながら話す。食事と似ており体で味わい『おいしい』『まずい』の意思を相手に伝えることだ」とした。

そのうえで「同被告には裁かれていない実感がなく、生命感を感じさせない」と言い、十年前、川崎市内で発生した金属バットで両親を殺した予備校生も表情がいつも同じだったのはなぜか?と問題を投げ掛けた。

大切な「包の関係」

心理学者は、人間の健やかな心・精神は丸みを帯び柔らかくへ心身で

長い間、村落共同体・地域社会が個々の家庭を援助してきた。子育ての半分は村・近所がやり、残りを家庭でしたが、今の子育ては家庭が全て。かつては親が子供の心を傷つ



山崎 哲さん

山崎さんは宮崎勤被告を主題に公演するため公判を傍聴。裁判長が宮崎被告に幼稚園児へ話すように尋問したが、同被告の反応は薄いと新聞は書いたが、山崎さんは「死に体に見え、息をしている気配さえない。裁判長は『自分の声が被告に伝わっているのか?不安だったろう』と団員との対話とタブラせた。

そして「対話とは、相手に言葉の意味と自分の声を届け、その反応を

包む、包まれる「包の関係」にあるという。だが同被告の心は角張り、包の関係と無縁に生きてきた。対話の起源は、赤ちゃんが「おぎや」と泣き、母親が「よしよし」と応答した時。授乳の時は母親が赤ちゃんを包み込んでいる状態で、母親も精神的に赤ちゃんに包まれ安らぎを覚える。離乳時から家族が作った食事を言葉と一緒に体に受け入れる。「包の関係」は自然で無意識に作られる。

貴重な乳幼児期の対話

宮崎被告ら青少年犯罪の容疑者は乳幼児期に真の対話の経験が乏しく、相手の声を体の中で受入れる方法が分からないまま育った。

同被告は、女性を抱きたいとの欲望はあるが、成人女性に拒絶反応を示し、無防備な幼女と接した時、包の関係を保持したのではないか。対話が出来た祖父が死んだ時に泣き叫び、女性名で犯行声明を被害者宅に送った行為が、それを示唆している。

重荷を背負う家庭

長い間、村落共同体・地域社会が個々の家庭を援助してきた。子育ての半分は村・近所がやり、残りを家庭でしたが、今の子育ては家庭が全て。かつては親が子供の心を傷つ

市民企画講座

でも地域社会がカバーした。今の家庭は重荷を無理して背負っている。地域社会の崩壊は、経済構造の変化や消費社会がもたらした。生産することに価値のあった社会からサービスや情報産業が就労の半数以上を占める社会になった。分業化で家族

の死さえ病院に移り、子供達は死ぬ瞬間の尊厳を経験できない。

休息の場、再生が急務

山崎さんは「その結果、膨大な商品が学校、家庭に送り込まれ、家族が休息し対話する場が壊された。今

「多摩川と語る」で小川一朗・立正大名誉教授

川は都市づくりの基礎

小川名誉教授は、まず「川と地形」について講義。川は水が山を削る侵蝕作用で出来る。多摩川は関東山地から東京湾まで、奥多摩には千、二千の山があり、流れが激しい峡谷で掘削蛇(だ)行し土砂を運ぶ。青梅市に入ると流れが緩やかになるため、堆(たい)積土砂が扇(せん)状地を作り町となった」と述べた。

があることで都市が生まれる」と強調。人間が多摩川を積極的に産業・生活に生かしたのが、江戸時代に十五年間掛け掘削した二ヶ領用水。中原の多摩川は平地より低く利用価値は少なかったが、用水完成で六十カ村に水を供給、水田に生まれ変わり、全国有数の米所になった。

さらに、平地では土砂は自ら自然堤防をつくる。それが川崎市中原区の沖積低地で、洪水にも土地は残り地下水も豊富なため、人が住み家が建ち道が出来る」と多摩川の「生い立ち」を話した。

また青梅の材木は、イカダに束ね多摩川を使って羽田まで流し、そこから商人が舟で江戸に運んだ。明治時代末、京急大師線周辺に次々と工場が建ったが、原材料を船に積み運河を利用、工場に運べるため、川は工業都市発展に大きく貢献した。

さらに同名名誉教授は「世界の川と都市」の歴史に話しを転じた。ロン



熱心に「川は生きている」を聴く市民
(円内は小川先生)

次に同名名誉教授は「川は産業、生活と切り離せない大切なもの。川

ドゥン、パリは紀元直後にローマ軍が侵入しローマ人が作った盆地の街。ロンドンの東にはテムズ川が、パリの東にはセーヌ川が流れる。軍隊の駐屯には防備が必要。川を防衛線にし、陸地には要塞・城壁を築いた。住民が増加すると、城壁の外に新たな城壁を造る。パリは北側がモンマルトルの丘まで、南側がモンパルナスの丘まで城壁を次々に増やし住宅街に。順次、都市の体裁を整え一九世紀の終りに城壁を壊し、その跡を環状線道路にした。ロンドン、パリ、モスクワは「河岸都市」。

ニューヨークは、ハドソン川の河口にあるマンハッタンの街造りから始まる。海に注ぐ河口という立地条件が世界一の港湾都市成立の要件だ。マンハッタンは元々はインディアンの漁場。オランダ支配を経て英国が基地建設の防衛に壁を造った。証券街で知られるウォール街は「壁の街の意味」。上海、武漢もニュー YORK に似た「河港都市」だ。

(取材・伊藤てるよ)

講座・講演

探していた講座がある

学習・文化情報

学習・文化情報

出かけてみよう 見てみよう

「育児休業と介護を考える」とい

「パートで働くひとのための講座

「川崎北労働センター」11月12日(火)

「さくらんぼ坊や」を見よう

「歴史に埋もれた郷土史」

「市民ミュージアム」イギリスが誇る

「パンチ」に描かれた日本像

1/FAX044-733-450

「親と子の絵本ふれあい講座」

「言葉の葉かたり」総合教育センタ

「日本人の国際性」私とスペイン

「神奈川の鳥」小机探鳥

「川崎美術協会展」ムラタヤビル

「川崎宗教文化の集い」中原市民

「天体写真展と天体観望会」

1の川崎市国際交流協会

「男とおやじの家族考」

「子ども一日版教室」

「手作り絵本展」

「川崎市定期能」

「この街僕らの音楽」

「クリスマス親子劇場」

「クリスマスコンサート」

魅力あるイベントがある

学習・文化情報

催し

ステージ

人。同館は新百合ヶ丘駅より徒歩2

「文学歴史散歩講座」

「七宝焼入門」

「たかつ音楽祭」

「ひとひらのあいコンサート」

「麻生市民館」

「クリスマスコンサート」

「王禅寺、柿生、東柿生、白山小戸

参加したいグループがある

学習・文化情報

11月26日(火)10時半〜12時。演奏は麻生弦楽合奏団。パッパ「プレリユー」他8曲。入場自由。同館は新百合ヶ丘駅より徒歩2分。問合せは044-951-1300の同館・振興係。

【青少年フェスティバル】麻生市民館 12月1日(日)10時〜15時。演劇「彦一ばなし」は11〜12時。入場自由。同館は新百合ヶ丘駅より徒歩2分。問合せは044-951-1300の同館・振興係。

【川崎マンドリン倶楽部定期演奏会】教育文化会館 11月9日(土)18〜21時。川崎マンドリン倶楽部主催。入場料千円。同館は川崎駅より徒歩15分、バスの便有り。044-233-6361。

【秋季三曲演奏会】幸市民館 11月10日(日)10〜19時。川崎市三曲協会主催。入場無料。同館は幸区役所前入口バス停徒歩2分。044-541-3910。

【川崎市少年少女合唱団定期演奏会】教育文化会館 11月16日(土)17時半〜20時。川崎市少年少女合唱団主催。入場料3千円(前売り2千500円)。同館は川崎駅より徒歩15分、バスの便有り。044-233-3611。

【川崎市民謡協会秋季大会】教育文化会館 11月24日(日)9〜20時。川崎市民謡協会主催。入場無料。同館は川崎駅より徒歩15分、バスの便有り。044-233-3611。

火曜13〜16時、幸文化センターで。連絡先は044-733-5606の同代表宅か044-511-6864の井上豊宅へ。

【川崎市民謡協会】入場無料。同館は川崎駅より徒歩15分、バスの便有り。044-233-6361。

【引ハツピーコンサート】高津市民館 11月24日(日)13〜17時。川崎吹奏楽団主催。入場料700円。同館は溝ノ口駅より徒歩10分。044-833-7411。

大学入学

【社会人入学】日本女子大人間社会学部 勉学の意欲が旺盛で社会的経験豊かな社会人で、来年4月1日現在25歳以上で高校を卒業した方を対象に特別の選抜によって大学の門戸を開く。募集は現代社会、社会福祉、教育、心理、文化の各学科。募集人員は文化学科5人、その他は各4人。選抜方法は小論文、英語(英和辞典の持ち込み可)、面接。出願期間は11月11〜15日。試験は11月30日(土)、11月12日(日)東京都文京区目白台2-18-1同大学で。募集要項は同大学入試事務室(03-3942-1394)へ。

6504)で1部900円で配布中。人間社会学部(044-952-6814)は、川崎市多摩区西生田1-1-1、小田急読売ランド前駅徒歩15分。

会員募集

【第7回たかつ音楽祭メンバー】高津区溝口377-1、県立高津青少年会館 12月15日(日)高津市民館ホールのステージで一緒に歌い、演奏しませんか。コーラスの練習日は毎週木曜と金曜18時半〜21時。ギター・マンドリンの練習日は毎週水曜18時半〜21時。県立高津青少年会館音楽室で。連絡先は044-844-2101の県立高津青少年会館へ。

【金曜あみもの研究会】高津区久本4-18-1ハインズ溝ノ口514、村井靖子代表 編物が好きな人は一緒に楽しみましょう。第1・3金曜高津市民館で。連絡先は044-877-3073の同代表宅に午後にお願います。

【にくるま】川崎区中島3-8-13、山口千代子代表 会員の希望に沿って学習しています。家庭菜とのつき合い方、文学、工場見学、うた、体操、藍染、料理、絵、可かをやっ

てみたい方は一緒にどうぞ。月1回第3木曜、13時半〜15時半、教育文化会館で。連絡先は044-233-4083の同代表宅に18時以降にお願いします。

【金曜フォトクラブ】幸区小向町1-3、山下城代表 一眼レフカメラの撮影技術と現像引伸の研究技術が向上します。楽しいですよ。第1・3金曜に撮影会やエポック中原で9〜12時、勉強会。連絡先は044-555-6050の同代表宅へ月曜9〜10時半にお願いします。

【多摩平和サロン】多摩区東生田2-13-33、澤昌利代表 平和について語り合い、見聞を広め、平和のために研究し合ひましょう。月1回土曜午後、多摩市民館で。連絡先は044-911-5234の同代表宅へ夜間をお願いします。

【ジヨイフル英会話】多摩区菅北浦4-15-5-431、吉田範子代表 外国人講師による日常英会話の学習。楽しみながら英語に親しみバインガルミセスを目指しませんか。毎週火曜10〜12時、多摩市民館で。連絡先は044-945-1720の同代表宅へ。

【幸林俳句研究会】中原区小杉陣屋町1-777、高井元一代表 楽しく勉強し、俳句による自己表現ができることが目標です。毎月第2

【ヨルメ長月会】高津区久地4-9宮寺八重子代表 一緒にヨルメを楽しみませんか。週に一度、心と体をリラックスさせ、自分を見つめ自分を知る。自分の変化を楽しみながらヨルメに励んでいます。毎週金曜19〜20時半、高津市民館体育室で。会費月3千円。連絡先は044-822-3350の同代表宅へ。

【多摩短歌研究会】多摩区寺尾台2-6-7、和泉遊代表 歌人、評論家・岩田正先生による歌会と講義。誰にもすぐ自然と人生のすべてを詠みこむことができます。毎月第2金曜13時半、多摩市民館で。連絡先は044-955-1681の同代表宅へ。

譲って

日本音楽教育センター現代詩吟講座のテキストと本とカセット。笹川鎮江先生の女性用テープ教材。購入の半額程度を希望。044-722-0843の大堀宅に土・日21時にお願います。

★リサイクルコーナー投稿要領★
リサイクルの品物は本、CD、レコード、カセットに限ります。葉書に「あげます」「譲ります」「ください」「譲って」の該当名▽品物の種類と特徴(例)初版本、少し汚れ

あり。カセット、新品同様)▽著者、歌手、演奏家、指揮者▽作品名▽譲ります「譲って」の場合は希望価格▽電話番号、氏名(みょう字だけでも可)▽連絡希望曜日、時間を記し、川崎市麻生区万福寺1-2の2、新百合2ビル、川崎市生涯学習振興事業団「リサイクル係」へ。なお、品物の受け渡し方法は当事者で決めて下さい。当事業団は紙面を無料で提供するものです。

投稿のお願い

次の要領で投稿をお待ちします。「心このる生涯の一冊」は、感動した本の感想を400字詰め原稿用紙二枚弱(二行二十字で、三十七行以内)にまとめて下さい。欄外に作



心強い市長の熱意

川崎区四谷上町、自営業、高士三枝子さん(60)私、既に独立した2人の母親。市長さんの教育に対する熱意を「いまを話す」で読み、心強く

品(本)名、著者名、ご自分の住所、氏名、年齢、職業、電話番号を書いて下さい。一部削除することがあります。「会員募集」は会の名称▽代表者の住所、氏名▽おもな活動と場所▽活動状況(例 定例会を毎週金曜日)▽入会呼び掛けメッセージ▽連絡先電話番号、氏名(連絡希望日・曜日・時間も)「講座・講演」「ステージ」「催し」「シンポジウム」などの「学習・文化情報」は発行月(奇数月)の前月(偶数月)5日までに資料を送って下さい。申し込み方法や参加費の有料・無料の区別、連絡先電話番号・氏名もお願いします。なお、投稿欄の掲載料は無料です。

教師は自分を律する心を

感じました。現在、登校拒否や頭髪を染めるなどの問題があるが、私は教師の責任を問う前に家庭におけるしつけの在り方を考えます。高津区久地、谷口辰三さん 市長の教育者としての使命感あふれる考えに感動しました。古来から教育者は高橋先生のような一貫した姿勢を持っていました。今も大多数の教師はそうでしょうが、自分を律する心を持って頂きたいと思います。(次ページへつづく)

親、教師は教育観変えよ

川崎区藤崎、宮前哲夫さん 高橋市長の教師時代の情熱ある教育実践を多くの先生が見習ってほしいと思います。親と教師が変われば子供も変わる」との心で次世代の教育に努力すべきだ。

素晴らしい民間の協力

中原区上小田中、会社員、匿名女性(42) インタビューで高橋市長の

「民間協力」は33カ所

本誌の配布場所広がる

「Stage Up」の無料配布場所が100カ所から12カ所に広がりました。民間の生涯学習へのご理解が一層深まり、配布場所は民間63カ所、公共施設49カ所になりました。各位に心から感謝します。9月号の「心このる生涯の1冊」に投稿された稲毛神社宮司、市川緋佐磨さんから「多くの知人からStage Upを読んだ」と反響があった。いい所に置かせて貰っているんですね。これからも頑張つてと激励を頂きました。「本屋さんに置いてあると便利だが……」との要望も

ありました。ご理解を得られず残念です。配布場所は次の通りです。

- 小売店 さいか屋川崎店▽ヌマヤ川崎店▽イトヨーカドー溝口店
- 金融機関 川崎信用金庫本店・川崎地下街出張所・小田支店・京町出張所・大島支店・大師支店・渡田出張所・遠藤町支店・加瀬支店・小倉出張所・鹿島田支店・古市場出張所・御幸支店・新城支店・住吉支店・武蔵小杉支店・新丸子出張所・平間支店・宮内支店・向河原支店・梶ヶ谷支店・子母口支店・高津支店

人柄に接し感激した。「はりきつてます」のボランティアの方々や老人の交流も心が温まる思い。今後このページを楽しみにしている。貴誌が金融機関に置いてあつて初めて知つたが、民間の協力はいいことだ。もっと置き場所を増やして下さい。

市長のPRもめ

宮前区有馬、自営業、匿名男性 「いまを話す」で革新市長のPRを

何回続けるつもりか。今ではなく、過去をしゃべり、看板に偽りありだ。直ぐに止めて、文化人や芸能人の軽い楽しいインタビューにすべきだ。

編集チームから：誤解されているようです。「いまを話す」はその前文でも書いていますが各界、各分野で活躍中の方にお話を聴き、多様な生き方、考え方に接して、読者の生涯の糧になればと考え企画しました。

市長は市民が直接選んだ市民代表であると同時に教育者です。今、教育問題がクローズアップしている折、特別ゲストとして2回の連載になりました。また「看板に偽りあり」との意見ですが、歴史や過去、体験から教訓を引き出すことは大切ではないでしょうか。本誌は川崎の生涯学習情報誌で、それを逸脱しない範囲でゲストをご推薦下さいますようお願いいたします。

- 二子新地出張所・野川支店・有馬支店・向ヶ丘支店・稲田堤支店・宿原支店・中野島支店・長沢支店・登戸支店・柿生支店・百合丘支店▽横浜銀行川崎支店・大島支店・大師支店・御幸支店・鹿島田支店・武蔵小杉支店・新城支店・元住吉支店・溝口支店・鷺沼支店・川崎北部市場支店・登戸支店・稲田堤支店・生田支店・読売ランド駅前支店・百合丘支店・新百合丘支店・柿生支店▽住友銀行川崎支店・宮崎台支店・新百合丘支店▽太陽神戸三井銀行溝口支店・柿生支店
- 鉄道 JR川崎駅▽JR登戸駅▽東京急行日吉駅
- 公共施設 教育文化会館▽情報コーナー▽幸市民館▽高津市民館▽中原市民館▽宮前市民館▽多摩市民館▽麻生市民館▽菅生分館▽岡上分館

- 館▽県立川崎図書館▽幸図書館▽高津図書館▽中原図書館▽宮前図書館▽多摩図書館▽麻生図書館▽市民ミュージアム▽日本民家園▽青少年科学館▽市立体育館▽石川記念武道館▽幸スポーツセンター▽麻生スポーツセンター▽青少年の家▽青少年創作センター▽青少年センター▽市役所▽川崎区役所▽幸区役所▽中原区役所▽高津区役所▽宮前区役所▽多摩区役所▽麻生区役所▽福祉バルあさお▽労働会館▽エポックなからはら▽中小企業・婦人会館▽総合自治会館▽市民プラザ▽労働資料室▽消費生活センター▽ヨネネットイ堤根▽ヨネネットイ王禅寺▽産業振興会館▽フルーツパーク▽緑化センター▽県立勤労女性会館

(その他、老人いこいの家に若千部数置いてあります。)

三三三三三

多摩地域文化賞 市民手作りの第7回多摩地域文化賞(同委員会代表藤田親昌さん)受賞の2団体、1個人がこのほど決まった。受賞は、夏期公開講座を25年間続け社会人教育に貢献、受講者同士の交流を促進し地域社会づくりにも尽力した専修大文学部(多摩区三田、鈴木丹士郎部長)▽多摩区多摩美2丁目の樹林地8千平方メートルの緑を守る運動を盛り上げ、昨年「ふれあいの森」として保全の決定に大きな役割を果たした多摩美町会自然保護対策委員会(小林一郎代表)▽音楽家で長年、点字楽譜の製作、指導に心血を注いだ飯田洋司さん(同区東生田2)。飯田さんは目が不自由だが、多摩区民まつりなどの地場活動にも積極的に参加し、障害者に勇気を与えている。同賞発表文化パーティーは、9月29日、当事業団ホールで開き、受賞団体・個人に結城天童画伯の大型色紙が贈られた。

秋の運動会は少数の意味 川崎市内に勤務するミセス(30)が先日、東京都江戸川区に住む友人(32)と久しぶりに会った。「私たちの小学生の頃の運動会は秋だったが今は6月よ。今春、長男が小学校に入学し

て初めて知ったの」と溜め息。時期繰り上げの理由は「秋は中学受験準備に忙しい」。川崎市内の小学校でも秋の運動会は少数に。高橋市長は、「いまを話す」の中で「あんなに教える内容を増やし、子供をモミクチャにして良いのか。教育内容を思い切って絞るべきだ」と述べているが、その母親は「真剣に子供の心と体を考えた教育改革を」と訴えていたという。

宮前区PTA協議会が当事業団を視察 9月下旬、宮前区PTA協議会の佐藤広子副会長ら15人が当事業団を視察。対応した稲垣事務局長が事業団の事業や施設について説明。同協議会のメンバーから「国際化、情報化・高齢化に役立つ生涯学習事業を積極的に進めて欲しい」との要望があった。うれしい悲鳴 市民企画講座「多摩川と語る」心のセミナーは、9月17日午前9時から電話で受講申し込みを受け付けたが、「心」が1時間半後に定員60人をオーバー。「多摩川」もその30分後に定員に達した。

このため急ぎよ、定員を各10人増やし各70人にする一方、キャンセル待ち、各10人とした。企画から講師の選定・交渉、PRチラシの作成・配布まで「みんなの力」を結集した市民企画スタッフは「努力が報われた」と大喜び。しかし、受講出来なかった多数の市民から厳しいおしかりを受け、職員は電話の前で平身低頭。

うれしいおしかり電話 「高橋市長は『いまを話す』で子供と取組み合う授業をした。と体験を語っているが感激した。だけど、Stage UPは目立たないよ。あんないい内容なのに、手に取る人が少なかったら、もったいないじゃないか。色刷りとか工夫しなきゃ駄目だ。9月初旬、宮前区の村林武一郎さん(73)から電話を頂いた。全戸配布や町内会での回覧も提案された。ご意見は建設的だが、予算の関係ですぐに実現は無理。村林さんのご意見を受け、今月号から表紙だけ2色刷りにしたり、デザインを工夫し、ちよっぴり衣替えしたつもりです。

編集後記

▼今月号の「いまを話す」のゲストは、九月号に引き続き高橋市長です。市民から「前回の『情熱なき教師は教壇から去れ』の見出しは刺激的だが、興味深く読んだ」など好評でした。▼今回の見出しもそれに負けず劣らず刺激的ですが、市長発言全体のトーンを読み取り、自信を持つて付けましたが、いかがでしょう。▼「いまを話す」は新年号から一ゲスト一回の完結にします。ぜひ、新鮮で魅力的な市民をご推薦ください。▼配布場所を民間に広げたりにも高い評価を頂きました。民間各位に感謝します。▼「はりきつてます グループ紹介」は良い企画だと思います。これからも楽しみにしている。▼元警察署長の声▽市民企画講座の開催に先立ち、川崎記者倶楽部で事業団初の記者会見▽市民企画スタッフの代表一人が講座内容を簡潔に説明。ほとんどの日刊紙が報道してくれました。▼今回「苦戦」したのは「心このる生涯の一冊」でした。投稿者に記念品も差し上げないで、お願いする厚かましさを承知で「協力」を学ばず、市民が拓く——生涯学習誌に徹します。ご意見をお寄せください。

発行 財団法人 川崎市生涯学習振興事業団
〒215 川崎市麻生区万福寺一の二の二 新百合21ビル
電話(044) 951-5000 FAX(044) 951-1350
編集人 田中 園